

新年度予算

**新年度予算は
市民要求実現の
ための編成を！**
大久保 忠
(日本共産党)

問 災害時、市民が避難する避難所・避難場所は安全でなくてはならない。小・中学校の外トイレや段差、各公園のトイレなど、バリアフリー化への配慮はされているのか。

答 公園や学校のトイレなど、公共施設のバリアフリー化については、現在のところ計画等はないが、今後関係部署と調整を図りながら検討する。

教育行政

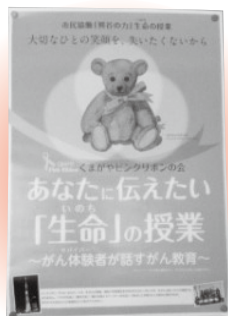
**がん教育
「いのちの授業」
について**
二本柳妃佐子
(公明党)

問 本年3月定例会の一般質問で紹介した熊谷市のがん体験者が話す「いのちの授業」は、埼玉県初の取り組みとして注目された。そして今年度からは市内の中学校で実施されているが、関係団体や熊谷市教育委員会、関係部署との連携による情報収集をどのように進めたのか。また、来年度はどのように取り組むのか。

答 11月4日にピンクリボンの会の代表の方から熊谷市の取り組み、いのちの授業の大切さ等について話を伺った。さらに熊谷市教育委員会と連携を図り、がん教育「いのちの授業」を参観した。来年度からの小・中学校における取り組みについて前向きに検討していく。

問 小・中学校での認知症サポートー養成講座について平成24年6月に策定された認知症施策推進5ヵ年計画の中で、小・中学校での認知症サポートー養成講座を開催することが挙げられているが、本市の考えと取り組みは。

答 来年1月に南河原小学校で小学生向け認知症サポートー養成講座見学会が開催される。見学会の参加等を通して開催について検討していく。「その他の主な質問」
○認知症施策の推進



「いのちの授業」ポスター

地方創生

**「総合戦略」
策定のスピード**
細谷美恵子
(発言と行動する会)

問 地方創生の総合戦略策定作業で、国は早期策定自治体に交付金を出している。10月は677自治体に236億円、11月は724団体に67億円という2回、本市は対象に入らなかった。本市の財政状況を考慮すれば交付金は獲得すべきだったが、その検証は。

答 当該交付金は本市にとって財政支援面での利点はあるが、有識者会議等の十分な検討時間を確保するため、12月中の策定を目標とした。

問 小・中学生の学力向上策は教育行政における喫緊の最重要課題との答弁があった。その後改善は行われたのか。

答 新たに経験豊かな学習支援員を配置し、個別指導の充実と経験の浅い教員への資質向上を図るべく検討している。

問 本市の女性登用進捗状況
4月から女性活躍推進法が全面施行となる。国でも地域社会でも多くの場面で女性の能力が必要とされている。県内でも女性登用が遅れている本市が、積極的に対応することにより本市の魅力となっていくと考えるが、どうか。

まちづくり

商店街について
野本 翔平
(新政策研究会)

問 商店街はどのような存在と認識しているのか。

答 近くて気軽に買い物に行ける商店街は地域住民、特に高齢者にとって必要不可欠なもの。買い物だけでなく地域住民同士の触れ合いや、子どもやお年寄りの見守りなど、地域コミュニティの基盤でもあり、商店街が地域に果たす役割は重要と認識している。

問 商店街の現状をどのように認識しているのか。

答 経済的な現状について、